

総合人間学科

■哲学

関根 映樹さん(4年)



哲学とは、答えのない疑問に論理的思考で取り組んでいく思考方法です。ゼミの授業は、論理主義を中心に、ネーゲルやフレイゲといった哲学者の著作を英語あるいはドイツ語原文で読み、担当者が翻訳し疑問点を議論することで進めています。外国語の原文を正確に理解したうえで、哲学的理解をすることの難しさはありますが、議論するなかで哲学の知識と技術が身についていくのを感じます。

月に1回の担当教員の大辻先生との面談では、課題研究や卒業論文について、アドバイスを受けています。自分が悩んでいる疑問を話したり、思いつかなかった側面からの意見をいただいたり、丁寧な指導をしていただいています。例年4年生が5月と12月に行っている研究発表会には、哲学研究室以外の人や1、2年生も参加することができ、新たな視点からの質問を受けさらに研究を深めることができました。

哲学は本を読み考えを深めることで行う学問なので、これからも研究室内の対話を大切にしながら取り組んでいきたいと思っています。

■心理学

齊藤 咲良さん(3年)



「人の心を読むことができるの？」心理学を専攻していると言うと、そう言われることがあります。相手の表情やしぐさの変化をよく観察して、相手の持つカードに書かれた内容を予測して的中させるようなテレビ番組が流行った影響もあるのでしょう。私たちが行っている研究はそれらとは違いますが、人の行動の90%を占めていると言われる「無意識」に着目しているという点では似ているかもしれません。

心理学とは「心や行動を科学的に解明しようとする学問」です。心理学履修モデルでは、実験で得られたデータを基に分析を行い、人の感覚や知覚のしくみを数値化して明らかにする認知心理学を学びます。私たちは寺本先生と安村先生をはじめ、研究室の様々な方にご指導、お力添えしていただきながら、関連分野の論文を読んだり、研究を行ったりしています。

また、本履修モデルでは公認心理士資格取得のための講義もあり、認知心理学だけではなく、臨床心理学や教育心理学など、幅広い分野を学ぶことができます。

心理学研究室は頻繁にみんなでご飯に行ったり旅行に行ったり、仲が良いのいいところです。授業のみならず、研究のデータ解析などの際にも分からないところがあれば、みんなで助け合って解決しています。

■倫理学

野々下 菜桜さん(3年)



倫理学とは、人間の行動の規範となる物事の道徳的な評価、すなわち善と悪について検討する学問です。倫理学履修モデルでは、規範倫理学・応用倫理学・メタ倫理学等の分野について学ぶことができます。

私が所属しているゼミでは、各自が興味を持つテーマに基づき文献を読み、その内容を要約して発表し、全員でディスカッションを行います。各自の興味関心や持つ知識が多岐にわたるため、このディスカッションを通して、自分の考えに対して全く異なる視点からの意見をもらえます。自分の知見を広げ、深められる充実した時間なので、学習のうえで

不可欠な機会だと感じています。

私は現在、「道徳的に善く生きるためには感情とどう向き合えばよいか」という問いを中心に、徳倫理学の分野の学びを深めています。徳倫理学は、「善く生きるにはどうすればよいか」という問いに端を発しており、近年再び議論が活発になっている分野です。まだ卒業論文のテーマを決めるには至っていませんが、徳倫理学を学ぶ中で自分の関心と向き合い、ゼミの活動を通じて得た視点も取り入れながら、今後検討を進めたいと思います。

■社会学

池永 健介さん(3年)



社会学が扱う問題や課題は日常の至るところにあります。そのため、私たちの生活に最も近い学問と言っても過言ではありません。皆さんがよく耳にしているであろう少子化問題、貧困問題、人種差別、LGBTQなどの課題はまさに社会学の専門分野です。

ゼミでの主な活動は、社会学の文献を読んだり、卒業論文のテーマについて発表したり、というものです。どちらも「議論」に重きが置かれており、時間をかけて深く考え、意見を共有することで、思考する力を身につけることができます。文献を読む際、1人で理解できないことがあっても、議論の場で様々な意見をもらうことで、わかるようになります。

ゼミの雰囲気はとても良く、みんな仲が良いです。授業外ではゼミ生同士で食事に行くこともあります。お互いの卒業論文のテーマについて話し合ったり、相談したりもできるので、研究がしやすい環境です。また、多岐に渡る研究分野のおかげで、幅広い知見を研究に取り入れられるのも社会学ゼミの強みだと思います。

■文化人類学

宮元 昭桂理さん(4年)



文化人類学とは、文献やフィールドワークを通して世界中の異なる民族の文化を比較・研究する学問のことです。自文化と照らし合わせることで、日常の「当たり前」が他文化では存在しないことに気づき、多様性について理解を深めることができます。旅や異文化への興味といった軽い興味からでも始めることができるのが文化人類学の魅力でもあります。私も、実際にイギリスでの留学やタイでのフィールドワークを経験し、様々なカルチャーショックに直面し「当たり前」という概念が崩れる経験を通じて、世界への視野をより広げることができました。

私の所属するゼミでは、課題読書を行い文化人類学の基礎をおさえる「演習」の時間と、各々が興味のあるテーマについて自由に研究・発表する「応用演習」の時間の両方が設けられています。研究テーマは、フードロスやジェンダー、海外の日本人コミュニティなど多岐にわたっています。ゼミにはテュルク系、モンゴル系、そしてアラブ系の学生も在籍しており、多国籍・多人種・多言語の環境でお互いに積極的に意見を交換し、刺激し合っています。

■地域社会学

浦上 沙樹さん(3年)



地域社会学は、地域が抱える具体的な課題について取り組む学問です。農村環境や過疎、地域コミュニティ、福祉など、地域社会に関わる多様なテーマを扱います。論文を読むだけでな

く、フィールドワークを通して実際に現場の声を聴きます。これは地域社会学の魅力の1つです。

今年の3年生は社会調査実習にて、熊本県阿蘇郡高森町と大分県中津市耶馬溪町での聞き取りを行い、農業や移住についてのお話を伺いました。そこで聞き取りした内容は、いま調査報告書にまとめているところです。ゼミでは、論文などを輪読し、そこから浮かぶ論点について意見を出し合います。このディスカッションを通して、あらゆる視点から物事を考える力や多くの知識を身に付けることができます。

ゼミの雰囲気はとても温かく、3、4年生、院生は皆で遊びに行くくらい仲が良いです。担当教員の牧野先生、吉武先生も優しく、豊富な知識で指導してくださいます。地域社会学ゼミは、楽しく学び、人として成長できるゼミです。

■民俗学

嵐 羽美さん(4年)



民俗学とは、人々が今日まで伝承してきた文化の変遷や起源を探る学問です。現地に赴き、人々の暮らしを見たり話を聞いたりするフィールドワークを主な手法としています。この1年間、4年生は自分の定めた研究テーマに基づき、各々のフィールドで調査を行いました。ゼミの活動では、研究構想を数回にわたって発表し、先生方からのアドバイスや学生同士の活発な意見交換を通して研究をブラッシュアップしてきました。私は、地元である大分県に伝わる伝統芸能を研究のテーマとして、現在担い手となっている方々を対象に聞き取り調査を行い、集落において芸能がいかんして生まれ継承されてきたのか、担い手の方々の生の声から考察することに取り組んでいます。後期から始まった3年生との合同ゼミでは、学年の垣根を越えて議論を行うことで今まで以上に学びを深めることができましたと感じています。残り少ない学生生活ではありますが、個性豊かで意欲あふれるゼミ生とともに刺激し合い、高め合いながら研究に励みたいと思っています。

■地理学

田中 早織さん(3年)



地理学とは土地や場所、地域などに関する「なぜ」を問い、地域を良くするにはどうすればよいか、といった課題に取り組む学問です。研究テーマは様々で、先輩方はフードデザート問題、農産物直売所、災害伝承と地域防災、ネットショッピングと実店舗、在留外国人、地名の認識、町並みイメージの形成、等々の多彩な問題意識に基づいて卒業論文に取り組んでいます。このようにそれぞれの視点を大事にしながら、様々な問題を土地や場所、地域に結びつけて考えていくのが地理学の特徴です。

この1年、私たちは、地理学の担当教員である鹿嶋先生と米島先生の、時に優しく時に厳しい指導のもと研究に取り組んでいます。授業ではGIS(地理情報システム)の使い方や地図の作成方法を学んでいます。また夏休みには地理調査実習で京都市を訪問し、グループごとに設定したテーマに沿ってフィールドワークを行い大変貴重な経験をさせていただきました。この先も研究室の先生をはじめ、先輩や同期の仲間たちとともに充実した地理学ライフを送りたいと思っています。